

ついて記すと、オナガササキリ・マツムシ・スズムシ・オンブバツタ・ツユムシsp・ハラオカメコオロギ・クサヒバリ・カンタン・シバズなど、赤穂市の有年大池とは異なったファウナが成立していた。

2004年9月12日に証拠標本を得るために同地を訪れたが、植生の遷移が進行しており、クズ・ススキ・セイタカアワダチソウなどの高茎草本が繁茂し、環境はすっかり異なっていた。カヤコオロギを探してみたものの、なかなか見つからず、2個体ほど見かけただけで、証拠標本を得ることはできなかった。植生が繁茂していたため、探索効率が低下していたことは事実であるが、しつこく探してみてもほとんど見つからなかったことから、この地点はこのまま放置すれば本種の生息環境としては悪化の一途をたどりつつあるのではないかと推測された。

2. 摂食行動の一例

2004年9月11日に赤穂市の有年大池を訪れた際にカヤコオロギの摂食行動を確認することができたので少しふれておきたい。ここでは、多数の本種が生息しているので、しばらく観察していると、15時15分にネザサの葉の上面に静止し、葉の表面をなめるような行動をとっている雌個体が目撃できた。その行動はしばらく続き、やがて葉の中心に穴があいた。ここから、さらに摂食を続け、15時50分まで続いた。後で、周辺に生育しているネザサを見てみると、葉の中央部付近に楕円形状ないしは長楕円形状の穴があいている葉が多数確認された(ただし、中央脈部分は避けている)。これらは、おそらくカヤコオロギの食痕である可能性が高いと考えられた。実際に摂食行動を観察したのはこの1例だけであったが、葉の縁からではなく、葉の中央付近から摂食を始めることに興味深く感じた。ネザサの食痕については、写真-2に示した。

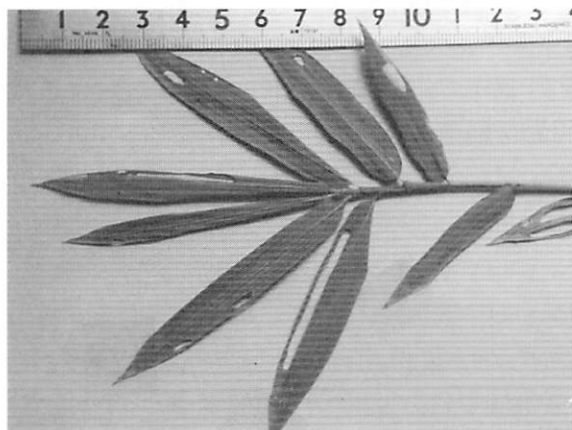


写真-2 ネザサにみられる食痕

神戸市北区(藍那)でキボシマルウンカを採集
植田 義輔

神戸市北区山田町藍那(135° 07'E, 34° 44'N, 標高230m)でキボシマルウンカ *shiharanus iguchii* Matsumuraを採集したので報告する。

採集データ:

13exs., 12.VIII.2004; 2exs., 18.IX.2004;

1ex., 17.X.2004

いずれも、神戸電鉄藍那駅北西部の里山林の林縁部をスウィーピングして得られたものである。特に、8月12日は、採集個体以外にも多数個体を確認しており、多産しているといえる状況であった。本種の産出状況は、山地でみられるがまれであるとされているが¹⁾³⁾、このように多数確認されたので報告する次第である。また、寄主植物はナガバヤブマオなどのイラクサ科植物とされているが²⁾、今回は林縁部の比較的広い範囲から得られたので、当地における寄主植物を特定することはできなかった。本種の属する頸吻亜目 Auchenorrhynchaはマイナー昆虫のひとつであるが、本種はテントウムシに類似した特徴的な斑紋を有した美麗種であり、この報文を期にさらなる分布および産出状況の情報の報告を期待したい。



キボシマルウンカ